

1 1 期生のホーム・カミング・デー

平成22年3月22日（月）、桜の花もようやく咲き始める中、北は北海道旭川、西は鹿児島から御遺族、御夫人方を含め343名の11期生が、本科54期生等の卒業式に、五百旗頭学校長から招待され、43年ぶりに小原台に参集しました。

当日は黄砂もなく全国から集めた快晴の中、近代化された各種施設に驚きながらも、防衛学教室の現役自衛官に温かく迎えられ受付を行い、ホッとする間もなく早々に昔話に花が咲き、互いの元気を確認しあった様子でありました。



その後、御遺族及び御夫人方は卒業式典会場へ、その他の参加者はAVホールへ移動し、本科54期生等の卒業式典を見学しました。当式典は、卒業証書及び学位授与、学校長式辞、鳩山総理大臣訓示、北澤防衛大臣訓示、そして来賓代表として東海大体育学部長で柔道の山下泰裕氏の「日本人として誇りを持ち、国民一人一人が平和に貢献しなければならない」等の祝辞が行われ、引き続き任命・宣誓式等厳粛に行われました。

特に学校長の式辞で「本席に防大を卒業し42年振りに11期生約3

70名の方々がホーム・カミング・デーとしてお祝いに参列されております。長年の功に感謝し、今後は卒業生を励まして頂きたい。」との言葉があり、厳粛な中にも温かい式典に母校を深く感じた場面もありました。



その後、顕彰碑への献花を行い、改修されたグラウンドに用意された椅子で観閲行進を見学、嘗て自らが行進をし、棒倒し等を行ったグラウンドにタイムスリップし「血と汗と涙」を改めて感じた様子でありました。



また、横須賀中央で行われた懇親会では、26名の物故者への黙禱に始まり、「御夫人方は、本日の現役学生を観て、ご主人を彼等に置き換え、惚れ直して頂きたい。」とのユーモアある開会の言葉で和やかに始まり、同期の昔の面影を見つけ、語らい、最後に肩を組み逍遙歌を歌い、・祖国のため・母校の発展のため・20年後に、もう一度会いましょうと三回の乾杯をし、盛会の内に懐かしい一時を過ごされました。



多くの参加者が嘗て自らが巣立った卒業式を想い、輝かしい卒業生から若さと元気を貰い、新たな人生の門出とされたと推察し、ホーム・カミング・デーの目的は十分に達成できたものと考えます。

末筆になりましたが、準備段階から積極的に御支援、御協力を頂きました防大防衛学群長岩下1等空佐以下関係の皆さまにこの場をお借りして心からお礼申し上げます。(防大同窓会本部 HCD 担当)